

花あふれるふくおか推進協議会（福岡県）

協議会構成団体： 福岡県、福岡県花き園芸連合会、全国農業協同組合連合会福岡県本部、福岡県花き市場協議会、福岡県花商団体連合会

対象品目

キク、バラ、トルコギキョウ、カーネーション、ガーベラ、ダリア、クルクマ、ケイトウ、花壇苗等



キク



バラ



トルコギキョウ

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・2024年4月の働き方改革関連法の施行により従来のトラックによる輸送力の確保が困難となり、関東市場での消費機会を逸することが懸念される。
・そこで、物流クラウドシステムの試行導入、スプレーグクにおける流通効率化を目的とした短茎栽培方法（スマート規格）確立のための試験を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

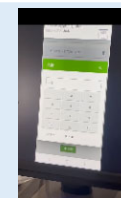
・生産者を講師としてフラワーアレンジ教室等を実施し、花育活動を通じ、取組後の花の購買行動に関するアンケート調査を行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・夏場の高温による収量減や害虫対策として、塗布材による遮光や太陽光パネルを使用した黄色LEDの効果を検証した。
・ダリアにおける炭酸ガス局所施用による収量増加技術の実証を行った。
・得られた成果は、マニュアル化し産地及び関係機関で共有する予定。

< 取組の成果 >

・物流クラウドシステムの試行導入について、生産者がスマートフォンで出荷情報を入力することで、手書き作業等にかかる作業時間が18%削減された。
・また、JAでの荷受から出荷において、パソコンへの入力が省略され、ケアレスミスがなくなるとともに、作業時間が37%削減された。
・スマート規格栽培方法確立のための試験について、生産量増加を目的とした密植（200本/坪）栽培に適應できる3品種（ミッドナイトサン、ボウル、コロソ）で、短茎商品として十分な品質であると判明した。



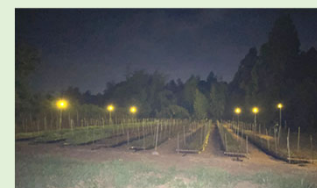
物流クラウドシステムによる出荷情報の一元化

・花育活動として、小中学生や親子、専門学生を対象としたフラワーアレンジメント教室や産地訪問を行い、計752名が参加した。
・取組後のアンケート調査では、参加者の35%が花を飾る機会が増えた、30%が購入頻度が増えた、15%が購入金額が増えた、との回答があり、花育が一定の消費拡大に寄与することが示唆された。



産地訪問

・夏季カーネーションハウス外面に塗布する遮光資材の未処理区と比べて、ハウス内の温度が最高4.8度、平均2.4度低下した。これにより、慣行区より9日早く出荷を開始することで、開花遅延の影響が緩和されたと考えられ、計画的な出荷を行うことができた。
・7月中旬の定植16日後から太陽光パネルを利用した黄色LEDを電照した結果、無設置区の虫害率が100%に対し、試験区は10%に抑えられており、試験期間中の照度は安定しており、電源のない露地ほ場で問題なく防蛾灯として使用できることが確認できた。
・炭酸ガスの局所施用により、全面処理よりも出荷本数が13本/坪増加し、売上（試算）は2,500千円増加した。



黄色LEDによるヤガ類防除の検証

< 今後の取組予定 >

・JAグループと連携し、集出荷システムを活用した物流効率化のための実証試験を行う。
・輸送効率化に資する短茎規格の品種比較及び栽培試験（密植栽培の適応性）を実施するとともに、輸送試験を通じて、輸送コスト削減を検証する。
・小中学生や親子等を対象とした花育イベントを開催し、花のある暮らしを提案するとともに、アンケートを実施し、効果を分析する。
・夏場の高温や害虫対策のため、キク等本県の主要品目における遮光資材（被覆タイプ）やフェロモン剤の有益性を実証する。

佐賀県花づくり推進協議会（佐賀県）

協議会構成団体：佐賀県花き生産団体連合会、佐賀県農業協同組合、株式会社佐賀花市場、株式会社唐津花市場、佐賀花商組合、唐津花商組合、佐賀県

対象品目

切り花：キク、バラ
カーネーション
スイートピー
トルコギキョウ 等



キク



トルコギキョウ

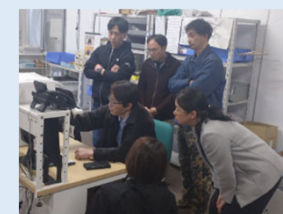
< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- ・本県は個人で市場に直接出荷を行う生産者が大部分を占めており、出荷や販売の効率化が課題となっているため、他県の先進的な取組事例を調査した。
- ・先進事例調査の結果をもとに、今後の取組方針に関する検討会を開催し、課題への対応について協議を行った。

- ・出荷管理システムの活用事例を調査し、県内での導入について検討する機会となった。市場への出荷情報の送信や、納品書や請求書の作成の効率化につながるため、生産者のもとで実証することとした。
- ・検討会において、県内の生産者は複数の出荷市場を抱えており、生産物の振り分け作業に労力がかかっているため、その部分の効率化についても検討が必要であることが分かった。



先進事例調査

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- ・これまで花に興味を持たなかった県民にも花に触れる機会を増やし、更なる消費拡大を図ることを目的として、多くの県民等が集まる場所で「フラワーフェスティバル」を開催し、県産花きやフラワーアレンジメントの展示等を実施した。

- ・フラワーフェスティバル来場者へのアンケート（回答数211人）の結果、普段は花を「購入しない」と回答した10名（5%）のうち、2名（20%）がイベントに参加して「今後花を購入したい」と答えた。
- ・フラワーフェスティバルを開催した地域における花屋（18件）にアンケートを行った結果、2件（11%）の花屋で「開催後に来客数が増加した」との回答が得られた。
- ・これらの結果から、継続してイベントを実施してきたことで、少しずつ効果が出ていると考えられた。



フラワーアレンジメント展示

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- ・トルコギキョウにおいて、近年、土壌病害（立枯病、青枯病等）の多発による減収が課題となっているため、新たな資材を用いた土壌還元消毒の効果を検証した。
- ・高温時に定植するため品質の低下が課題となっていたトルコギキョウの秋季出荷作型で、閉鎖型育苗による作型適応処理の実証を行った。

- ・低濃度エタノール土壌還元消毒により、立枯病の多発圃場（約3割の被害）において、被害を5%以下に抑えることができ、出荷本数の増加につながった。注意点として、粘質土壌では還元状態になりやすいが、効果を高めるためには定植前に十分に好気状態に戻しておく必要があることが分かった。
- ・育苗後期の温度を下げて花芽分化を抑え、生育をそろえる「作型適応処理」により、初夏の定植では早期花芽分化を抑制できて草丈を確保できたが、猛暑期の定植では、定植前後の温度差で一部活着不良が発生し、課題が残った。



土壌消毒実証圃場

< 今後の取組予定 >

- ・出荷や販売の効率化を図るため、受発注情報のデジタル化システムを生産者のもとで導入し、効果や課題を検証する。
- ・「フラワーフェスティバル」を開催し、新たに県内の花きや花屋をカードやポスター等を活用して、これまでよりわかりやすくPRし、更なる消費拡大を図る。
- ・土壌還元消毒方法に関する研修会を実施し、普及を図る。育苗方法については、猛暑期の課題に対応するため、育苗時の温度管理を検討する。

長崎県花き振興協議会（長崎県）

協議会構成団体：長崎県花き振興協議会各専門部会（きく、カーネーション、ばら、洋ラン、鉢物、草花）、全国農業協同組合連合会長崎県本部、県内5JA、長崎花き園芸農業協同組合、佐世保花き園芸農業協同組合、佐世保青果株式会社、(株)諫早花市場、長崎県

対象品目

切り花：きく、バラ、
カーネーション、草花
鉢物：鉢物・苗もの、
洋ラン



小学校での花育体験



UV-B照射中のハウスの様子

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- 花き流通状況の現状把握、規格の見直しに係るアンケートを実施し、意見の集約を行った。
- 流通の検討会では、実際の新制度下での輸送状況について新たに出てきた課題等について意見交換を行い、課題解決のため取組が必要な内容について整理した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 「ながさきの花の展示会2025」を開催し、全国の市場や実需者に対し、県オリジナル品種を含めた長崎県の花きのPRを行い、県産花きの需要の拡大を図った。
- 家庭内での花き購入額の増加に向けて小学生を対象に、県内で生産されている花きの紹介と花の魅力を伝えるために、これまで実施していない学校においてアレンジメント体験を実施した。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- 【きく・UV-B照射による白さび病・ハダニの防除】
白さび病・ハダニ類の防除にかかる労力負担が大きいため、UV-B照射による発生抑制効果及び防除労力の低減効果について実証を行った。
- 【ガーベラ・炭酸ガス局所施用】
品質・収量向上が期待できる技術として、炭酸ガス局所施用技術の実証を行なった。
- 【きく・自動噴霧システムによる農薬散布省力化】
高温期の農薬散布省力化技術の実証を行なった。

- 規格の見直しについてアンケートを実施したところ、取り組みを検討したい品目とそうでない品目について意見集約ができた。
- 規格の見直しについて、取り組みを検討した離島産地では、実際に変更した規格について市場との協議を行うことができた。
- 流通の検討会では、意見交換により生産者段階で取組可能な荷箱の積残し課題について対策検討することとした。

- 県内外の実需者32団体に対し、産地のPRや今年産のランキュラス新品種、出荷計画を提示し、新たな取り引きや販売についての検討がなされ、新たな出荷品目として14品目、8市場の拡大ができた。
- 合計20校、582名の小学生に対してアレンジメント体験を行い、小学生の花に対する興味を醸成し、また、家庭に花を飾ってもらうことで、家族を含め県産花きの魅力を発信することができた。

【きく・UV-B照射による白さび病・ハダニの防除】

- 無照射区では、殺ダニ剤1回の散布でハダニの発生(137匹/30葉)が確認されたが、照射区では、散布無でも発生は低く(4~20匹/30葉)抑えることができた。
- 白さび病の発生は、照射区では5回の殺菌剤の散布で、無照射区では6回の殺菌剤の散布で抑制された。

【ガーベラ・炭酸ガス局所施用】

- 11月後半からの炭酸ガス施用により2月後半から切花本数の増加(0.8本/株)が見られ、12月下旬~2月の累積切花本数は無施用区と比較し120%となった。

【きく・自動噴霧システムによる農薬散布省力化】

- 天候や散布時間に関係なく計画的な農薬散布作業が可能となった。また農薬散布時間が1/3に短縮され身体的負担が軽減された。



グループでの意見交換の様子



展示会の様子



炭酸ガス局所施用の様子



自動噴霧システムによる散布の様子

< 今後の取組予定 >

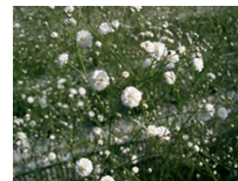
- 輸送問題改善のため、輸送会社との協議・検討を継続して行っていく。また、輸送効率向上、輸送費の低減に向け、取組可能な品目、産地において共通箱の検討を行う。
- 生産現場の様々な安定生産技術、品質向上の取り組みをPRすることで、安定取引可能な市場の開拓につなげていく。
- UV-B照射については、商品化率や秀品率向上による販売額向上効果、農薬散布回数低減による費用対効果の検証を行う。
- 局所施用については、炭酸ガス施用の効果が期待される期間の品質向上、収量の増加を確認し技術導入の経済性の評価を行っていく。

熊本県花き協会（熊本県）

協議会構成団体： 熊本県経済農業協同組合連合会、県内11農業協同組合、熊本県花き園芸農業協同組合、熊本県花き事業協同組合、熊本県農林水産部、県内25市町村

対象品目

切り花：
宿根カスミソウ、
トルコギキョウ、
アリウム



宿根カスミソウ



トルコギキョウ



アリウム

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・花き市場の自社集荷事業において、トラックへの積込に台車を使用することで、荷役作業時間の短縮化・省力化を図った。

また、台車物流に加え、集荷先現地での出荷シール即時発行・貼付を組み合わせることで、市場到着後の仕分け作業の省力化を図った。

・キクにおける短茎規格推進の取組み、花き市場におけるハブ拠点化の取組みについて視察を実施。

・関西の花き市場から講師を招き、花き流通の効率化に係る講演会を開催。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・中心市街地や花市場において、県産花きのアレンジメント体験や寄せ植え教室を実施。

・小中高校生等を対象に県産花きを用いたフラワーアレンジ教室や寄せ植え教室、コンテストを実施。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・トルコギキョウの土壌消毒資材（低濃度エタノール）と微生物資材を併用した立枯対策

・トルコギキョウの吸引式LED捕虫器による微小害虫対策

・アリウム「丹頂」のジベレリンを用いた長期貯蔵技術

< 取組の成果 >

・台車使用により、トラック1台あたりの作業時間が手積みと比べ平均55分削減可能なことが確認でき、集荷場での混雑解消や荷分け作業の簡略化、運転手の負担軽減につながった。また、出荷シールの現地貼付を行うことで、市場到着後の分荷作業の省力化になり、トラック1台あたり30分（50%）作業時間が削減され、労力の分散化にもつながった。

・輸送コストの削減につながる短茎規格の推進は、大消費地から遠方である本県にとって、今後の参考となるものだった。

・花き市場でコロナ渦を契機に行われたセリのオンライン化に係る取組みについて学ぶことができた。

・計240名が中心市街地で、計155名が職場での花きのアレンジメントを体験し、アンケートの結果、93%の参加者が「花屋で自分の好きな花を買いアレンジを作ってみたい」と回答。

・計300名が花市場でのアレンジや寄せ植え教室（月1回実施）を受講し、アンケートの結果、参加者の85%が体験後1か月の間で花を購入したと回答。

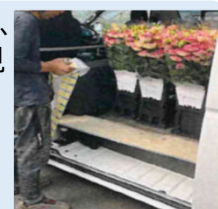
・合計444名の小学生等が花育体験を行い、保護者に対する花きの購入頻度に関するアンケートの結果、花育体験後花きの購入が増えた家庭は16%、今後花きの購入を増やしたい家庭は76%となった。

・戦略品目の花きの生産状況と日持ち品質向上の取組みのPR及び県産花きの紹介などにより、県産花きに対する理解促進を図ることができた。また、若年層を含めた新たな需要の発掘につながった。

・トルコギキョウの土壌消毒資材による立枯対策については、薬剤による消毒より危険性が低く、作業負担が小さかった。薬剤消毒の2倍の経費となるが、立枯病発生割合が5%以下でも経営的にはメリットがあることが分かった。

・トルコギキョウの吸引式LED捕虫器による微小害虫対策については、コナジラミ類へ防除効果があることが確認され、出荷数量は前年比125%に増加。ただし、捕虫器のみの防除では十分でなく、農薬と組み合わせる必要があることが分かった。

・アリウムの長期貯蔵技術の実証については、切花の日持性（15日）は確認できたものの、市場到着時には適切な切り前よりも進んでしまっていたため、慣行よりも早い切り前で採花する必要があることが分かった。



出荷シール貼付風景



アレンジメント体験



吸引式LED捕虫器

< 今後の取組予定 >

・集荷先現地における出荷シールの印刷・貼付するシステムについては、今後熊本県花き園芸農業協同組合が管理・運用を行う予定である。

・小・中・高校生、専門学校や大学生を対象とした花育教室の開催を継続して実施するとともに、購入場所や機会の情報提供をすることで、消費拡大のPRを行う。

大分県花き産業振興協議会（大分県）

協議会構成団体：大分県花き生産者協議会、(株)大分園芸花市場 丸果大分大同(株)、(株)別府花市場、(株)中津花市場、大分県花き消費拡大連合会、日本ワリデザイナ協会大分県支部、NPO夢一輪の会、フラワー装飾大分県技能士会、大分県華道協会、JA大分県花き販売対策協議会、大分県園芸活性化協議会、大分県

対象品目

切り花：ホオズキ、輪ギク、カスミソウ、ヤマジノギク 等



ホオズキ



輪ギク

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・物流の2024年問題により、輸送労力の不足や輸送運賃の値上がりが生じている。輸送コスト削減に向けて、現行の箱の強度の厚みや重量を落とし、市場への輸送に過剰な資材コストをかけない新たな出荷資材の開発と輸送試験を実施した。また、海路、ストックポイントを活用した新たな輸送経路を検討した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・小学生を対象に県産花きを用いた花育教室（アレンジの展示および花のスケッチ）を実施。
・若年層をターゲットとした県産花きの消費拡大を目的に県産花きを中心に利用したフラワーフェスティバルを実施し、その中で「おおいたテーブルブーケプロジェクト」の情報発信をし、実際に専用サイトで購入する流れも含めてPRを行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・本県の主要品目である「ホオズキ」は、近年の夏季の高温による生理障害などにより反収が低下しており、安定生産技術の確立が県内全体での課題となっている。他品目で高温対策として効果的である遮光資材を導入し、高温障害の発生状況や出荷率に与える影響を調査した。

< 取組の成果 >

・低コスト出荷資材を用いた輸送試験を輸送中のムレなどが生じやすい夏秋品目を中心に5品目（ホオズキ、ヒマワリ、カスミソウ、ヤマジノギク、輪ギク）で行った。着荷状態については、段ボールに多少の天面の凹みなどが見られたものの、出荷物の品質に大きな影響はなかった。段ボールは平均して12%のコストダウンとなった。段ボールの他に低コストな給水資材や緩衝資材を試験し、輪ギクでは即時に現地での導入に至った。
・ストックポイント(関西ハブセンター)の活用により、九州～関西間の海路による輸送が可能となることが分かった。



輸送試験着荷の様子

・県内46校で花育教室を実施し、約2千人の小学生が参加した。アンケートを行い、花育実施前に家庭内に花を飾ると回答した児童は22%であったが、実施後は8割以上が花を飾りたいと回答し、今後の花き購入の意識付けができた。
・夏・冬のフラワーフェスティバルで消費者に県産花きのPRを行うとともに、その中でテーブルブーケの講習会や「おおいたテーブルブーケプロジェクト」のQRコードから販売サイトへの案内を行うことで、実際の購入に繋がり、ブーケの契約数は前年度の285件から増加して303件となった。



イベント内でのPRブース

・遮光資材①(遮光率20%)は導入区の出荷率82%、対照区の出荷率86%であり、高温障害である葉や実焼けの発生程度に有意な差はなかった。遮光資材②(遮光率80%)は導入区の出荷率89%、対照区81%であり、葉や実焼けの発生防止に一定の効果が見られた。
・遮光資材の導入は7月中旬に行ったが、今年度は7月上旬から平年値を上回る高温となった。今後も夏季の高温は前進することが想定されるため、さらに早期からの資材導入について検討する必要がある。



遮光資材設置状況

< 今後の取組予定 >

- ・輸送運賃の低減や労力不足解消のため青果センターを利用した県域での一元出荷の実証を行う。
- ・より集客の見込める大型商業施設等で花きイベントを開催する。「おおいたテーブルブーケプロジェクト」を通じた県産花きの消費拡大を図る。
- ・高温対策の実証圃では、効果の検証や産地間での比較を行うため、環境モニタリング装置を導入する。
- ・主要品目「ホオズキ」の更なる生産拡大のため、従来のビニールハウスより低コストで建設可能な雨よけハウスの自己施行マニュアルを作成し、普及推進する。

「みやざき花で彩る未来」推進協議会（宮崎県）

協議会構成団体：宮崎県JA花き協議会、宮崎県花き生産者連合会、
宮崎県花き卸売市場連絡協議会、宮崎県、宮崎県農業協同組合

対象品目

切り花：キク、スイートピー、デ
ルフィニウム、トルコギキョウ、
耐暑性りんどう、ホオズキ、ブル
ーフレグランス、キイチゴ



県産花き展示会



現地検討会

< 取組内容 >**1. 花き流通の効率化等の取組**

・出荷情報を入力時点から、市場もオンタイムでダウンロード共有ができ、かつCSVデータ形式で荷受けができる仕組みの研修。当システムを活用し、出荷情報（出荷報告書）のFAX送信からデータ取込方式に切り替える取組の検討。また、音声入力システムについて研修をし、荷受等の業務効率化に活用することを目指す。

- ・各産地における花き集出荷場の荷受から出荷までの業務効率化を図るため、JAみやざき園芸情報システムの現状と出荷情報の活用方法について、音声入力を含めたデジタル化について周知ができた研修となった。
- ・市場へも出荷情報について、データによる取込みにてダウンロードができ、かつCSVデータ形式でのデータ取得による荷受伝票等の作成方法について案内を行った。新規で3市場がデータ取込みを開始した。



DX研修

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・「花育」を通し広く県民へ「花のある生活」の定着を推進するため、宮崎県内の花き市場・生花店・園芸店と連携した花育体験を実施した。

・「みやざき花で彩る」県産花き展示会を開催し、生産者の意欲を高めるとともに、一般消費者へ県産花きをPRした。

- ・小中学校等へ出向く出前型花育は69回・参加者1,876名で、実施店のアンケート調査によると体験者が来店されたと回答があり、出前型花育が有効的に来店へと結びついている。また店舗で行う来店型花育は61回・参加者701名で、生花店・園芸店を日頃から利用されている方が約75%と高い比率であった。全体験者へのアンケート調査では、約94%の方がまた参加したいとの回答であった。
- ・県産花き展示会では一般消費者へ展示品の人気コンテストを行い投票数933票と多くの方に回答いただき県産花きのPRにも繋がった。またワークショップではフラワーアレンジメント教室を各回18名の6回実施し、延べ108名が体験された。参加者からは大変好評で、今後も花を飾りたい等消費拡大に向けた取り組みとなった。



花育体験

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・【輪ギク】自動定植機による省力化技術の実証

・【スイートピー】炭酸ガス施用と補光効果の実証

・【ブルーフレグランス、ホオズキ、キイチゴ】機能性フィルムの鮮度保持効果検証

・【トルコギキョウ】炭酸ガス施用によるブラスチング対策並びに品質向上技術の実証

- ・【輪ギク】機械植えにより定植時間が手植えの約1/3に短縮され労力の大幅な削減効果が明らかとなった。
- ・【スイートピー】炭酸ガス施用と高輝度LEDを併用し、落蕾率が約8ポイント軽減した。
- ・【ブルーフレグランス、ホオズキ、キイチゴ】機能性フィルムを使用した鮮度保持試験により通常の乾式・湿式輸送に比べ輸送後の品質が維持された。
- ・【トルコギキョウ】11月からの炭酸ガス施用により、1番花のブラスチング発生は確認されなかった。



キクの機械定植

< 今後の取組予定 >

- ・スイートピー、キイチゴ、りんどうの出荷形態について箱のサイズや入り本数等の見直し検討会を行い、試験輸送にて出荷から着荷までの現地調査を行う。
- ・県内で生産される花きの魅力の発信と消費拡大の機会として、みやざき花の祭典2026を開催し、生活の中での花の存在の定着を図るため、消費者参加型の取組を行う。
- ・花育については、生活の中での花の存在「癒しの効果、花を楽しむ生活」の定着を図る。また、生花店舗の紹介チラシを作成することで、来店への機会を創出する。
- ・トルコギキョウの炭酸ガス施用の実証では、適切な濃度や時間帯について課題が残ったため、次年度に実証を行う。

鹿児島県花き振興会（鹿児島県）

花き振興会構成団体：鹿児島県農協花き部会協議会、(株)鹿児島園芸花市場、鹿児島県花卉園芸農協、沖永良部花き専門農協、J A鹿児島県経済連、鹿児島県フラワー協会、日本フラワーデザイナー協会鹿児島支部、フラワーパークかごしま、鹿児島県農業開発総合センター、鹿児島県フラワーセンター、鹿児島県農産園芸課

対象品目

切り花：スプレーギク、ソリダゴ、テッポウユリ、トルコギキョウ



スプレーギク



ソリダゴ



テッポウユリ「咲八姫」

< 取組内容 >

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・若年層を中心とした花きの消費拡大を推進するため、花や緑に親しむ体験プログラムを組み入れたイベント「フラワーフェスタ」を開催。ガーデニング教室やフラワーアレンジメント教室、小学生以下ではお花屋さんのお仕事体験などの体験プログラムを実施。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

○スプレーギク・ソリダゴ

県内花き主力産地である沖永良部島の出荷において、長期輸送による品質低下を防止するため、低コストで品質保持が期待できる資材の導入に取り組んだ。

○テッポウユリ

県育成のテッポウユリ「咲八姫」及び「スカイホルン」のりん片の1年養成による球根肥大特性の技術実証など効率的な球根増殖体制の確立や、「咲八姫」の切り花栽培指針の改訂等に取り組んだ。

○トルコギキョウ

奄美地域で生産拡大の課題となっている種苗コスト低減のため、種子冷蔵のみで自家育苗が可能な品種選定に取り組み、それらの品種について、生産性を確認するための実証等に取り組んだ。

< 取組の成果 >

・イベントでは、一般を対象としたフラワーアレンジメント体験者100人に加え、若年層を対象としたお花屋さんのお仕事体験を親子52組が体験。お仕事体験は予定定員を超える申し込みがあり、親子での実施枠の拡大は次世代の新たな需要開拓が期待できるものと感じた。また、来場者アンケート結果では、回答者の約9割から「イベントを通して今後花の購入機会を増やしたい」との回答を得ており、イベントの開催効果が得られるものとなった。



小学生以下のお花屋さんのお仕事体験

○スプレーギク・ソリダゴ

・鮮度保持資材3種類を用いて梅雨期と猛暑期の2回、エア便と船便輸送で実証した結果、沖永良部島における夏季の輸送では、効果及び資材コストを考慮し、安価なクリザール鮮度保持シートを用いることとなった。

○テッポウユリ

・りん片繁殖（1年養成）による球根肥大特性を確認し、「スカイホルン」など県育成品種は切り花生産に使用できる球数が「ひのもと」に比べ15～20%多いことがわかった。
・咲八姫の切り花栽培指針の改定や、研修会の実施で作付球数が約2倍に増加し作期も拡大した。



着荷調査の様子



りん片繁殖ほ場

○トルコギキョウ

・低コスト育苗に向き、商品性の高い6品種を用い、与論島において生産性のある品種「ベール1型ローズ」「スプリングブルー」を適応品種として選定した。
・低コスト育苗技術について、育苗マニュアル案を作成した。



無冷房育苗の種苗

< 今後の取組予定 >

- ・【新たな需要開拓・消費拡大】 定員制限のため体験教室を受講できなかったという意見が多かったため、体験教室の実施回数や定員を増やして実施する必要がある。
- ・【スプレーギク・ソリダゴ】 県内他産地と共に、スマートフラワーの普及および販路開拓を図る。
- ・【テッポウユリ】 「スカイホルン」の小球利用による露地低コスト生産技術確立に向けた実証を行う。
- ・【トルコギキョウ】 低コスト育苗に適した品種の栽培技術確立や、低コスト育苗マニュアルの作成及びそれを活用した低コスト育苗技術の普及を推進する。